

ご近所のみなさん、日本共産党です。

この場をお借りして、今開かれている国会や、憲法問題をはじめとした県民運動と日本共産党の立場など、お話をさせていただきたいと思えます。ご協力をよろしくお願いいたします。

民主党の永田衆議院議員が、にせもののEメールを使って、ライブドアの堀江前社長と自民党武部幹事長の息子の、金銭関係を追及したことが、大問題になりました。資料の真偽を確かめもしないで、質問するなどというのは、国民と議会制民主主義を欺く行為です。野党としての政治姿勢が、根本から問われているのではないのでしょうか。

みなさん。

日本共産党は、たしかな野党として、頑張っています。

自民・公明の小泉内閣が進めてきた「規制緩和万能」の「構造改革」は、耐震強度偽装事件を引き起こし、業界全体の信用を揺るがす事態に発展しています。この問題で、一九九八年に、建築基準法改悪に反対したのは日本共産党だけでした。

ライブドア事件の温床となった商法改悪にも、一貫して反対したのが日本共産党です。

みなさん。

「構造改革」は、国民の間に深刻な格差をもたらしました。雇用の分野の「規制緩和」で、リストラが促進され、「派遣」とか「請負」などの、不安定雇用が増え続けたからです。トヨタの「請負社員」は正社員と同じ仕事をして、受け取る賃金は正社員の三分の一だそうです。その上、医療費や年金保険料、税金の負担が増える一方なので、たまったものではありません。

日本共産党は、暮らしを守る「生活相談活動」を、議員や支部が中心になって進めています。どんなことでも、一人で悩まないで、お近くの日本共産党議員か、支部の党員のところに相談に来てください。

みなさん。

医療の「構造改革」で、今年の十月から、お年寄りの医療費の窓口負担と入院費用の負担が増え始めます。二〇〇八年四月からは、七十五歳以上のすべての人が、新しい「高齢者医療制度」に組み込まれて、年間平均六万円の保険料が、「年金天引き」で徴収されようとしています。その上、保険が使えないで、全額患者負担の医療を拡大する、大改悪が行われようとしています。命と健康をまもる医療の分野にまで、「もうけ第一・弱肉強食」を持ち込む、医療大改悪をやめさせようではありませんか。

日本共産党は、すべての人が安心してかかれる医療をめざします。

みなさん。

日本国憲法は、第九条で、戦争放棄と戦力不保持・交戦権否認の立場を示しています。同時に、第二十五条で、国民の生きる権利・生存権を保障して、国が社会保障の増進に努めることを求めています。今こそ、この憲法を、丸ごと生かすときではないでしょうか。

十日付けの新聞報道によれば、五月九日に、大宮駅西口にある、ソニックシティーで、「九条の会」の講演会があります。ノーベル賞作家の大江健三郎さんと、評論家の加藤周一さん、作家の澤地久枝さんのお話を、直接聞くことができます。この講演会は、県内在住の教育学者・太田 堯氏や、元日本歌人協会会長の加藤克己氏、真宗大谷派・宗泉寺住職の且保哲夫氏、県地域婦人会連合会顧問の石井節子氏、弁護士の高藤順子氏、俳人で芸術院会員の金子兜太氏、日本カトリック埼玉地区浦和教会司教の谷 大二氏、被爆者で医師の肥田舜太郎氏など、八人の方の呼びかけで行われることになりました。

草の根で頑張る私たちも、是非参加したいと思えます。話を聞いてくださったみなさんも、参加してみませんか。

以上で、お話を終わりにします。ご協力、ありがとうございました。